

生成AIとデータ利活用で実現する 新しい教育の力タチ



2025年9月23日、AP東京八重洲にて、一般社団法人日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)主催によるセミナーが開催されました。本誌では、当日の様子を抜粋してレポートします。

基調講演

Keynote Speech



登壇者 放送大学 教授
中川 一史 先生

テーマ:デジタル学習基盤を視野に入れた子どもの学びと教師の役割

中川先生による、次期学習指導要領の動向も踏まえた基調講演が行われました。

<主なトピック>

- ・次期学習指導要領に向けては、**自己調整**や**デジタル学習基盤**を前提にした学びと指導の在り方が議論されている
- ・端末活用を教師主導から**児童・生徒主導へ転換**する重要性と課題
- ・**問題発見・解決能力**が各教科等において育む資質・能力として位置付けられることで、教科書の大きな変化が予想される
- ・**情報活用能力**は今後「情報技術の活用」に絞って示される一方、情報活用に関しては各教科のワーキンググループで議論される
- ・教育データの活用については、誤答の分析といった苦手の可視化にとどまらず、**自己効力感を高める**観点が必要だと考えている
- ・「生成AIを**体験的に理解する**」「**アプリやデジタル教科書**に組み込まれた**生成AI**を使って**学ぶ**」「**生成AI**を**日常的に活用する**」をスパイラル的に繰り返すことが必要

実践発表

Practical Presentation

3名の登壇者による実践発表が行われました。郡司先生からは、生成AIの特徴を学びつつ、実際に**生成AIを活用して原稿を分析**する中学校での実践の紹介がありました。福田氏からは、継続的な振り返りのデータを**教師の見取りの充実と児童の学びの俯瞰**につなげる取り組みが共有されました。田村先生からは、**メディア・リテラシーを育む**ために、総合的な学習の時間の中でどのようにデジタル教材を取り入れていったかを、実際の授業動画も交えながら発表がありました。



登壇者
学校法人桐蔭学園
桐蔭学園
中等教育学校
郡司 直孝 先生



登壇者
金沢大学附属
コラボレーション
推進室 室長
福田 晃 氏



登壇者
川崎市立
新小倉小学校
田村 露那 先生

※金沢大学附属小学校 吉木 寿充 先生の実践を代理でご発表

ワークショップ

Workshop

2つの会場に分かれてワークショップが行われました。各会場では講師によるミニ講演の後、実際にスズキ教育ソフトの製品を使って活動しました。A会場では、実践発表を題材に、デジタルワークシートを使って参加者が感想を書き込み、内容を集約・分析しました。B会場では、実践発表で登場したメディア・リテラシー教材をもとに授業づくりのアイデアを出し合いました。各会場の参加者からは、「授業での活用場面を考えながら情報交換ができた」といった声が寄せられました。



A会場

振り返りデータ利活用 + 生成AI活用



登壇者

放送大学 准教授
小林 祐紀 先生

金沢大学附属コラボレーション推進室
室長 福田 晃 氏

B会場

メディア・リテラシー



登壇者

日本大学 教授
中橋 雄 先生

川崎市立新小倉小学校
田村 露那 先生

パネルディスカッション

Panel Discussion

テーマ:授業での生成AI活用とデータ利活用で実現する個別最適な学びと協働的な学び

前田先生のファシリテートのもと、授業での生成AI活用やデータ利活用についてディスカッションが行われました。中山先生からは、「どっぷり使う」体験の大切さに触れつつ、子どもと共に生成AIとの付き合い方を考える実践が共有されました。岩崎先生からは、プロンプトの工夫による中学校での活用が提案され、「生成AIが正解を教えないような使い方」が具体的に示されました。佐藤先生からは、協働的な学びなどを通して子どもに立ち止まって考えさせることや、学びのプロセスを見取った言葉かけの大切さについてお話をあり、教師の役割を見つめ直す機会となりました。



登壇者

熊本大学
特任教授
前田 康裕 先生



登壇者

学校法人 佐藤栄学園
さとえ学園小学校
中山 昭岳 先生



登壇者

札幌国際大学
教授
岩崎 有朋 先生



登壇者

放送大学
客員教授
佐藤 幸江 先生



★製品展示コーナーにも
たくさんの方にお立ち寄りいただきました!

